イノベーションに対する取り組み

最終更新日: 2003年1月8日

|  |
| --- |
|  |

マイクロソフトは毎年数十億ドル規模の資金を研究開発に投じています。これは、顧客のニーズを満たす革新的な製品と技術を提供するべく、マイクロソフトが長期的な取り組みを続けていることを示しています。このページのリソースをご覧になって、革新に対するマイクロソフトの飽くなき追求が Microsoft SQL Server の中にも反映されていることをご理解ください。

**業界標準の確立**

マイクロソフトは長きにわたって業界標準の確立に寄与してきました。現在マイクロソフトは、[World Wide Web Consortium (W3C)(英語)](http://www.w3.org/%22%20%5Ct%20%22_blank) と協力して XML Web サービスおよび XML 標準の主要部分の作成に取り組み、マイクロソフト社員が W3C と一体となって将来のコンピューティング ソリューションの創出に努めています。W3C が取り組んでいる最新の作業プロジェクトの1つに、XML 照会言語 (XQuery) があります。XML 文書向けに設計されたこのまったく新しい革新的な言語は、SQL (構造化照会言語) と同様の照会言語です。マイクロソフトの Paul Cotton は、W3C におけるこのワーキング グループで議長を務めています。IT で 30年以上の経験を積んだ彼は、1998 年から W3C に参加しています。彼以外にも多数のマイクロソフトの社員やチームが W3C に携わっています。

**データベース管理に対するマイクロソフトのアプローチ**

貴社のシステムでは、作業負荷の変化に対してどれくらい迅速に対応できるでしょうか? SQL Server にはチューニング パラメータを動的に監視および変更する自動管理機能が搭載され、人手を介するよりもずっと高速に実行できます。この動画 (\*) の一部では、SQL Server アーキテクトの David Campbell とその同僚達が、データベース管理に対するマイクロソフトの哲学に通じたアプローチについて論じています。また、マイクロソフトの研究員である Surajit Chaudhuri が、自動管理機能の詳細と Microsoft Research の貢献について説明します。

**Microsoft Researchのデータベース グループ**

Microsoft Research のデータベース グループは、SQL Server 製品開発チームの研究開発部門です。革新的な方法で実際の問題の解決に力を注ぎ、データベース業界において優れた技術の創出と発展に貢献しています。詳細については、[Microsoft Research (英語)](http://www.research.microsoft.com/research/db/) サイトをご覧ください。

|  |  |
| --- | --- |
| • | 拡張性は、市販のハードウェアを用いて実証することができます。Sloan Sky Telescope における Jim の最近の業績は、天文学と超大規模データベースの分野において独創性と将来性に富み、[Fast Company (英語)](http://www.fastcompany.com/fast50/people/disrupters/28.html%22%20%5Ct%20%22_blank) からは革新のチャンピオンに選出されています。  |
| • | データベースの能力を強化しています。[Surajit Chaudhuri (英語)](http://www.research.microsoft.com/~surajitc/) とそのデータ マイニングおよび検索チームは、データベースの能力向上に情熱を傾けています。彼のチームはこれまでに、SQL Server 7.0 で初めて登場し、SQL Server 2000 で発展した機能について、14 件の特許を取得しています。Surajit とそのチームがどのようにしてデータベースの能力向上を成し遂げたのかをご理解いただくために、[AutoAdmin プロジェクト (英語)](http://www.research.microsoft.com/research/dmx/AutoAdmin/) と [データ管理検索およびマイニング グループ (DMX) (英語)](http://www.research.microsoft.com/dmx/) についてお読みください。  |
| • | モデル マネジメントによって生産性が飛躍的に向上します。Microsoft Research データベース グループの上級研究員である [Phil Bernstein (英語)](http://www.research.microsoft.com/~philbe/)が解説するモデル マネジメント分析ページでは、[モデル マネジメント (英語)](http://www.research.microsoft.com/research/db/ModelMgt/) によって組織の生産性がどのように向上するのかを理解することができます。 |

\* 2011年現在、この動画は公開を停止しております。

# **免責事項**

*本書に掲載されている情報は作成された時点での情報であり、その内容は予告なく変更される可能性があります。本書に記載された情報は、本書各項目に関する発行日現在の Microsoft の見解を表明するものです。Microsoftは絶えず変化する市場に対応しなければならないため、ここに記載した情報に対していかなる責務を負うものではなく、情報の信憑性については保証できません。*

*本書は情報提供のみを目的としています。 Microsoft は、明示的または暗示的を問わず、本書にいかなる保証も与えるものではありません。*

*すべての当該著作権法を遵守することはユーザーの責務です。Microsoftの書面による明示的な許可なく、本書の一部または全部について、転載や検索システムへの格納または挿入を行うことは、どのような形式または手段（電子的、機械的、複写、レコーディング、その他）、および目的を問わず、禁じられています。これらは著作権で保護された権利を制限するものではありません。*

*Microsoft は、本書の内容を保護する特許 (申請中のものも含む)、商標、著作権、またはその他の知的所有権を保有している場合があります。Microsoft から書面による明示的な使用許諾契約書が供給される場合を除き、本書の提供はこれらの特許、商標、著作権、またはその他の知的財産へのライセンスを与えるものではありません。*

*特に断りのない限り、本書に例示した会社、組織、製品、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、人物、場所、およびイベントは架空のもので、実在の会社、組織、製品、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、人物、場所、あるいはイベントとは一切無関係です。*

Copyright © 2011 Microsoft Corporation. All rights reserved.

Microsoft、SQL Server*、およびWindows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。*

*その他、記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。*